

第3次省エネ・エコオフィス実践プラン21

(羽生市地球温暖化対策実行計画・事務事業編)の実施状況等について

1. 令和4年度の総括

令和4年度における本市の事務事業に係る温室効果ガス排出量は、8,057t-CO₂(前年度比+290t-CO₂、+3.7%の増)となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた前年度に対し、社会経済活動が徐々に活性化し、施設の稼働状況などが増加したことから、「電気の使用」や「A重油」等の項目が増加しています。

令和12年度の削減目標の達成に向け、引き続き省エネ・節電に取り組むことを基本としつつ、公共施設における再生可能エネルギーの導入や環境配慮契約を推進し、温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。

【温室効果ガス排出量の推移(年度別)】(単位:t-CO₂)

	H25 基準年度	R3	R4 (今回算定)	R12 目標
排出量	8,641	7,767	8,057	4,666
対基準年度増減量(増減率%)		874(▲10.1)	584(▲6.8)	3,975(▲46.0)
対前年度増減量(増減率%)			290(+3.7)	

2. 原因別活動量及び温室効果ガス排出量とその要因分析

【原因別(活動の種別)活動量(エネルギー使用量など)】

原因(活動の種別)		単位	H25 基準年度	R3	R4 (今回算定)	対前年度増減量(増減率%)
燃料の使用	ガソリン	L	46,069	27,566	32,494	4,928(+17.9)
	灯油	L	165,624	140,226	143,649	3,423(+2.4)
	軽油	L	22,442	25,379	23,991	▲1,388(▲5.5)
	A重油	L	381,000	369,000	410,182	41,182(+11.2)
	LPG	kg	21,814	18,295	16,514	▲1,781(▲9.7)
電気の使用	Kwh	13,409,448	13,372,004	13,504,334	132,331(+1.0)	
一般廃棄物の焼却	t	13,796	13,750	13,342	▲408(▲3.0)	
その他	自動車の走行	km	630,129	407,853	433,112	25,259(+6.2)
	浄化槽によるし尿等の処理	人	4,089	4,089	3,588	▲501(▲12.3)
	下水処理	m ³	33,997	34,775	28,410	▲6,365(▲18.3)
	カーエアコンの使用	台	128	137	127	▲10(▲7.3)

【原因別（活動の種別）温室効果ガス排出量】（二酸化炭素に換算、単位：t-CO₂）

原因（活動の種別）		H25 基準年度	R3	R4（今回算定）	対前年度 増減量（増減率％）	R4 構成比 （％）
燃料の使用	ガソリン	107	64	75	11（+17.2）	0.9
	灯油	412	349	358	9（+2.6）	4.4
	軽油	58	66	62	▲4（▲6.1）	0.8
	A重油	1,033	1,000	1111	111（+11.1）	13.8
	LPG	65	55	50	▲5（▲9.1）	0.6
電気の使用		6,591	5,866	6,051	185（+3.2）	75.1
一般廃棄物の焼却		248	247	240	▲7（▲2.8）	3.0
その他		127	120	110	▲10（▲8.3）	1.4
計		8,641	7,767	8,057	290（+3.7）	100

【主要な項目の要因分析】

『燃料の使用』の『A重油』及び『電気の使用』の項目の温室効果ガス排出量が増加した主な理由は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた前年度に対し、社会経済活動が徐々に活性化し、施設の稼働状況などが増加したことが要因と考えられます。

3. 今後の措置・取組

本市の温室効果ガス排出量のうち、約75%を占める『電気の使用』を削減することが特に重要となります。今後は、以下の取組を推進します。

- ① ハード面での有効な取組
 - ・施設の統廃合による適正配置
 - ・公共施設の照明LED化をはじめとした省エネ化改修
 - ・再生可能エネルギー（太陽光発電）の導入
- ② ソフト面での有効な取組
 - ・排出係数の少ない再生可能エネルギー由来の電力を使用する環境配慮契約の推進